

* 電子タイプライター收藏

アーカイブ室を始めて2年が経過しようとしている。昨年の年度末には退職するM氏から測光部時代の流星写真、彗星写真などのデータを大量に譲られた。今年度定年退職されるM女史からもいろいろアーカイブスに加えたらどうかというものを譲渡されているが、その中に電動タイプライターがある。電動タイプライターの王様はIBMの重厚な高級品が使われていたことをよく覚えているが、その内、国産の何となく簡便な機械が出回った。IBMのような重厚さはなかったが、機能は大差なかったように思うが、宛名印刷程度にしか使わなかった筆者にはその機能の比較などはできない。今回收藏したものは、ブラザー(brother)製のAX-45という機種(写真1)である。納入時の箱こそないが、機械本体、取説、交換部品、メモリー、カーボンテープ、修正テープなど1式が揃っている。とはいえ、もはやこの種のタイプライターを使おうという人はいないだろう。歴史的遺物として收藏品の中に置いておくと、IBMの重厚なものが欲しいところである。



写真1 ブラザー製電子タイプライターAX-45

さて、收藏品に加えることにしたが、それほど古いものかと取説を繰ってみたが製造年

などは見当たらない。本体にも製造年などの記載はないようだ。本体の後ろにあった名盤が写真2である。



写真2 シリアルNo.が入った名盤

収蔵品が何年頃使われていたか分からないでは困ると思っていたら、取説の中に総合カタログが入っていて、それに昭和62年(1987年)版とあった。なんだ、国立天文台になる前年のものだからそんなに古いものではない。しかし、こういった事務機の進歩は著しく、23年ほど前の機械でどこにも故障はなく、使用できるものでも誰も見向きもしないで埃にまみれていた。捨てられなかったのは持ち主が物の整理があまり得意でない御仁であったためであろう。アーカイブをやっている者にとってはありがたい存在である。

今では字体の選択はソフトで出来るが、この機械はデイジーホイールカセット(写真3)というハードの交換で行うようになっている。用意されていたデイジーホイールカセットは4種類あった。写真で見ると取説と実物の名称が違っている。

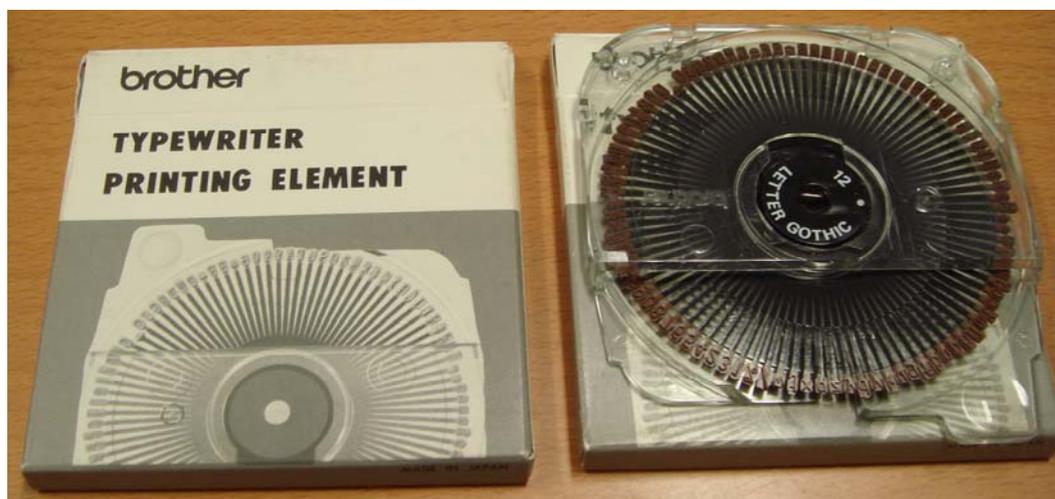


写真3 書体を変えるデイジーホイールカセット

この電子タイプライターは記憶装置をもっていて、メモリーが交換できるようになっている。このメモリーがわずか16KBなのだが、その大きさは驚くばかりである(写真4)。ほんの20年ほど前にはこのようなものであった。この他、一緒に譲られたものの集合写真を用意した(写真5)。これらを懐かしむ人はもう天文台には在籍していないのであろうと思いつつ、この記事を書いている。



写真4 16KBのメモリー



写真5 残っていた交換部品集合写真

写真5は、上段左が16KBメモリー、上段右が修正テープ、中段左がデジタイザホイールカセット、中段右がカーボンテープ、下段はキーボードにはるシールである。こういったタイプライターで論文が打たれていたのである。そのためにヘッディングのついたタイプラ

イター用紙（写真 6）が用意されていた。そして 1 枚にタイプする比較的厚手のものと、カーボン紙を挟んで 2 枚に印字して控えをとるタイプライター用紙が用意されていた。

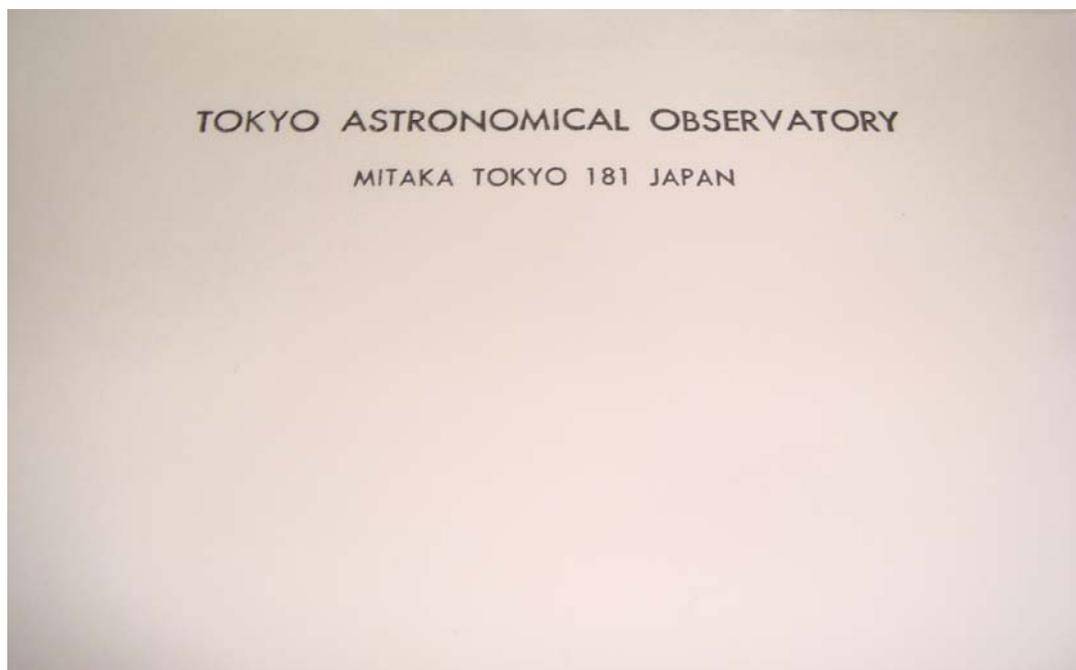


写真 6 タイプライター用紙

ちなみに、総合カタログに載っていた電子タイプライターの最高機種が 265,000 円、一番安いもので 42,000 円、この AX-45 という機種は掲載がないが AX シリーズの最高級品で AX-33 が 94,000 円とあるから、100,000 円ほどのものであろう。総合カタログの最後に手動タイプライターが 1 機種載っていて、38,000 円とあった。